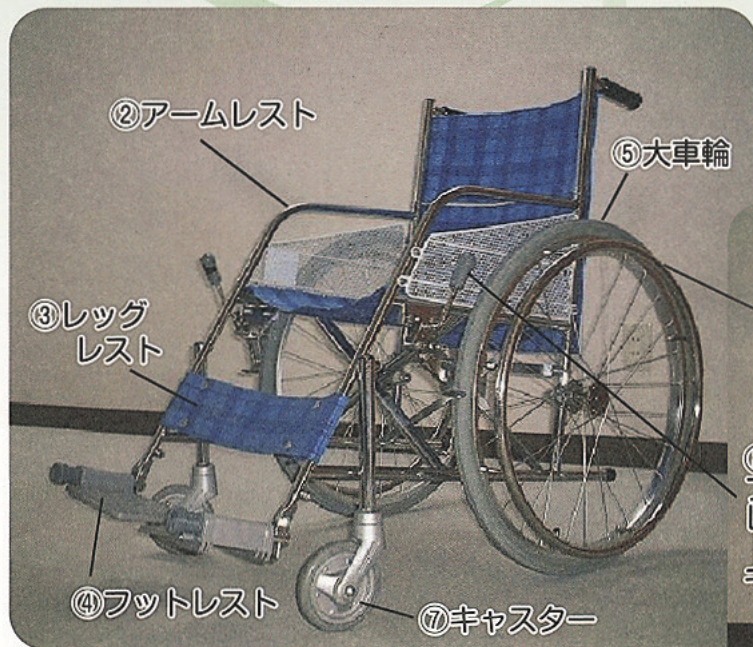


知っておこうよ 車いすのこと

車いすの各部のなまえ



①ハンドグリップ	ここをもって介助します。
②アームレスト	ひじかけに使います。
③レッグレスト	足をささえ、後方に落ちるのを防ぎます。
④フットレスト	足を乗せておく所です。
⑤大車輪	
⑥ハンドリム	乗る人がこれで大車輪を回します。
⑦キャスター	自由に向きが変わります（360度回転します）。
⑧ブレーキ	大車輪に1つずつついています。停止したら必ずかけましょう。
⑨ティッピングレバー	足をかけて踏むと、テコの原理でキャスターを上げることができます。段差や障害物を上るときに使います。

車いすの使い方と介助のポイント

車いすの「ひろげ方」と「とじ方」

※手をはさまないように注意しましょう。

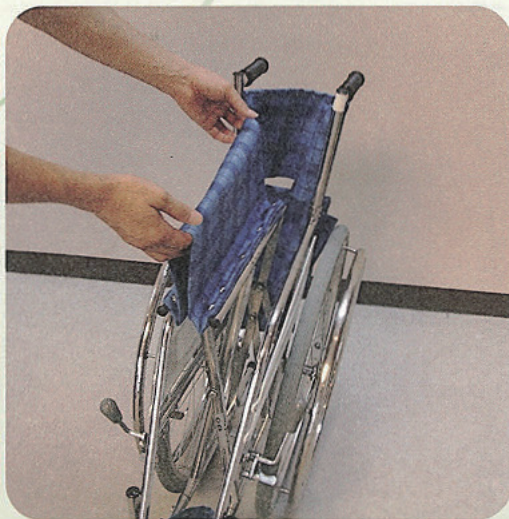
「ひろげ方」



車いすが閉じた状態です。



アームレストを持ち
開くところまで開きます。



完全に閉じるまで引き上げます。



車いすの横に立って、座るところの
真ん中をつかみ、持ち上げます。



座るところの両端部分に手をそえ、押し広げます。



車いすが動かないようにブレーキをかけます。



フットレストを上げます。



フットレストを下ろします。

「どし方」

車いすの「おし方」と「ブレーキのかけ方」

※声をかけましょう。

止まっているときはブレーキをかけましょう。



車いすの後ろに立ち、両手でハンドグリップをしっかりと握ります。ブレーキをゆるめ前後左右に注意してゆっくりと押していきます。



片手はハンドグリップをにぎり、もう一方の手でブレーキをかけます。乗り降りする時や、車いすから離れる時は必ずブレーキをかけます。



段差の「のぼり方」

※低い段差だからといって安心しないでください。慎重にしましょう。



フットレストや車いすに乗っている人の足が、段にひっかからない位置（段差のすぐ手前）でキャスターを上げます。

ハンドグリップをにぎりティッピングレバーに足をかけ、キャスターを段の上に乗せ、大車輪を段に押しつけます。



片方の腰を車いすの後ろに入れてやや腰を落とし、ひざを曲げたまま腰を伸ばすようにして押し上げます。

段差の「おり方」

※基本的なおり方は、のぼり方の手順の逆で行います。

「キャスターのあげ方」

※つま先をひっかけないように、車いすに乗っている人の足元に目配りをしましょう。



①ハンドグリップをにぎり、ティッピングレバーに足をかけます。

②ティッピングレバーを踏み込むと同時にハンドグリップを下に押し下げます。



③キャスターが上がったら、グリップをしっかりにぎり、ティッピングレバーから足をおろし、ひざと腰でバランスをとります。



*写真・文章 (p.4~p.7) は i-Ten-Labo (京都のボランティアと NPO のためのポータルサイト) ホームページ (<http://www.kyoto-v.com/>) を参考に作成しています。

「もちあげ方」

エレベーターやスロープのついていない階段などでは、車いすをもちあげることがあります。必ず3人以上で、周りの安全に気をつけながらもちあげます。この時、アームレストなどの取り外せるパーツをもって、持ち上げると危険ですので、注意しましょう。

※写真はわかりやすい様に、人が乗っていない状態です。



①車いすを階段の正面にむけハンドグリップと車いす本体のパイプを持ちます。



②車いすの前側をもつ人は、ここを持つと安定します。



③しっかりと持ち、一段ずつゆっくり進みます。左右にゆれたり、後ろに傾きすぎないように注意しましょう。



④乗っている人が、転げ落ちないように、おりる時は、階段に背中を向けゆっくりおります。

※
注
意
!!



ハンドリムを持ってあげると、車輪が回って危険ですので気をつけましょう。



アームレストが取り外しできるものがありますので、気をつけましょう。

車いすにのる人のお手伝い

1 車いすにのる人って？

骨折やケガなどをしている人、足腰が弱っている人、マヒなどで歩けない人、病気などで歩くのを禁止されている人など…。

車いすは、人を運ぶ車輪のついた「いす」や「車」ではなく、車いすを必要とする人にとっての「足」となるものです。ていねいに扱きましょう。

2 お手伝いをするときの注意すること

①「お手伝いしましょうか？」

まずは、声をかけて、車いすにのっている人が「〇〇してほしい」と言ったら、そのことを手伝いましょう。それ以上のことは、おせっかいになる場合があります。

②「声をかけましょう」

「曲がります」、「止まります」など声をかけたりしながら、コミュニケーションをとりましょう。また、お話をするときには、できるだけ車いすにのる人の目線にあわしましょう。

③「誰かに協力してもらいましょう」

事故防止のため、自信のないときや、できないことは、近くにいる人に協力してもらいましょう。

④「ブレーキを忘れずに」

坂道や止まっている時は、必ずブレーキをかけましょう。

⑤「足元に注意」

車いすにのっている人のつま先はお手伝いする人からは見えにくいので、足元に気をつけましょう。

3 普段からできることを考えましょう

☆自動車や自転車を止めるときは、車いすの人や歩行者のじゃまにならないように止めましょう。

☆看板や植木鉢など、置き場所を考えましょう。

☆お手伝いすることがなくても、見守ることも大切なことです。

☆ほかにも、お手伝いできることがあるか考えてみましょう。

